



輪島港復旧・復興プラン



目次

はじめに	2
第 1 章 輪島港の被害状況と課題	3
1－1 輪島港の概要	4
1－2 輪島港の被害状況と課題	5
第 2 章 短期復旧方針	9
2－1 短期復旧方針の基本的な考え方	10
2－2 短期復旧方針（方針図）	11
第 3 章 中長期復興プラン	12
3－1 復興に向けた要請と課題	13
3－2 中長期の基本方針と施策	17
3－3 中長期復興プラン	24
3－4 タイムライン	25

はじめに

輪島港では、昨年1月1日に発生した令和6年能登半島地震により、岸壁や岸壁背後のふ頭用地をはじめとする港湾施設に甚大な被害が生じるとともに、約1.5mの海底隆起により、船舶の座礁や泊地水深の不足等が確認され、輪島港全体が甚大な影響が生じている状況。

このことから、学識経験者・地元関係者・関係行政機関から構成する「輪島港復旧・復興プラン検討会」を設置し、生業再建を最優先事項とする「短期の復旧方針」をとりまとめるとともに、将来的な輪島港の利用ニーズ等も踏まえ、「中長期の復興プラン」をとりまとめ、輪島港の創造的復興を目指すもの。

【検討スケジュール（検討会開催実績）】

第1回検討会（令和6年5月24日）

- ・現状と課題の把握
- ・「短期の復旧方針(案)」の検討

第2回検討会（令和6年7月5日）

- ・「短期の復旧方針(仮称)」のとりまとめ
- ・「中長期の復興プラン」の検討

「短期の復旧方針」の策定・公表（7月12日）

第3回検討会（令和6年10月25日）

- ・「中長期の復興プラン(骨子案)」の検討

第4回検討会（令和7年3月21日）

- ・「中長期の復興プラン(案)」のとりまとめ

「輪島港復旧・復興プラン」の策定・公表

第 1 章 輪島港の被害状況と課題

1－1 輪島港の概要

1－2 輪島港の被害状況と課題

1-1 輪島港の概要

位置図



【輪島港の概要】

- ・船舶を安全に避難し、停泊する、全国36ある避難港の1つとして重要な役割を担っている。
- ・市街地部には、マリンタウンが整備され、クルーズ船が寄港する旅客船岸壁や観光施設であるキリコ会館、イベントなどを催す観光交流施設、マリーナなどが配置され、大規模災害時は、防災拠点としての機能を有する能登地域の核となる港となっている。
- ・県内最大の漁船数、漁獲量を誇る水産基地を有している。

①県内最大の漁船数



②荷捌所（水揚げ）



③クルーズ船の寄港



④緑地の賑わい



1－2 輪島港の被害状況と課題

【輪島港の被害状況】

- ① マリンタウン岸壁の海底隆起により、係留施設の水深が不足。
- ①-2 岸壁及び背後用地が液状化により地盤が緩み、船舶の利用が制限されている状況。
- ② 漁船だまりの海底隆起により、泊地の水深が不足。係留施設も被災し、漁業活動が困難な状況。
- ③ 第4・第6防波堤の被災により、港内の静穏性が低下。避泊域が確保されていない状況。
- ④ 港湾工事の基地となっていた作業ヤードの護岸が被災し、復旧工事に制約が生じている状況。

係留施設の利用 (①・①-2)

●マリンタウン岸壁

- ・ 既定の水深は7.5mであったが震災後は水深が約6.0mとなっている。
- ・ 岸壁と背後が隆起と液状化により、最大2mの段差がついている。



漁業者の影響 (②)

●漁船だまり

- ・ 海底隆起(約1.5m)により、約200隻の漁船が座礁するなど出港出来ない状態。
- ・ 係留施設や荷捌所などの共同利用施設についても被害が甚大。



港内の静穏性 (③)

●第4・第6防波堤

- ・ 消波ブロックが沈下や飛散しており、波浪の低減効果が発揮できていない。
- ・ 静穏性が保たれないため、避難船の受け入れが困難。



第6防波堤

復旧工事の制約 (④)

●港湾工事作業ヤード

- ・ 近年は、防波堤や漁港の消波ブロックを製作するヤードとして使用。
- ・ 地震の揺れにより、護岸が壊れ、ヤードは液状化現象が生じている。



1-2 輪島港の被害状況と課題

課題① (係留施設の利用)

マリンタウン岸壁の復旧

- 今回の地震を踏まえ、地元関係者からは、大規模災害発生時に緊急物資等の受入機能を確保出来るよう、岸壁の強靱化が強く望まれている。
- また、「新たなまちへの再生」に向け、地元関係者から、クルーズ船受け入れを通じた賑わいの再興のためにも、マリンタウン岸壁の早期復旧を強く望まれている。
- 一方で、本岸壁(水深7.5m)の復旧にあたっては、周辺仮設住宅の生活環境への配慮も含め、復旧工法の工夫が必要。
- さらに、地盤隆起により浅くなった泊地水深を発災前の7.5mで再度確保するためには、大量の浚渫土砂が発生することから、土砂処分場所の確保が不可欠。



マリンタウン岸壁の位置図



マリンタウン岸壁へのクルーズ船接岸状況

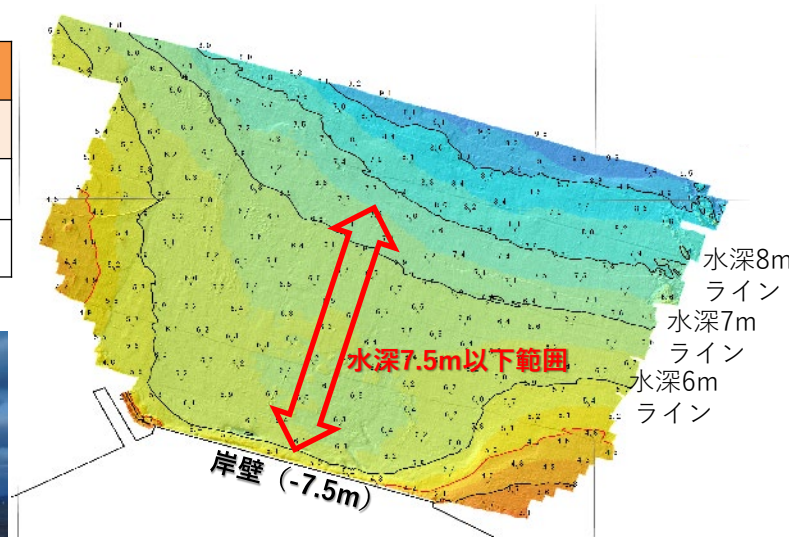
邦船クルーズ船 諸元		
船 名	船長	必要水深
ぱしふ いくびい なす	183m	7.5m
にっぽん丸	167m	7.5m



マリンタウン岸壁の被災状況
(令和6年1月10日撮影)



支援物資輸送船接岸状況
(令和6年1月10日撮影)



地震後のマリンタウン岸壁前面水深

1-2 輪島港の被害状況と課題

課題②（漁業者への影響）

漁船だまりの復旧

- 「地域を支える生業の再興」の観点から、漁業関係者から、原位置における漁船だまりの早期復旧が強く望まれている状況。
- 上記の実現にあたっては、地盤隆起により隆起した物揚場からの漁船への乗降や、円滑な荷捌きが可能となるよう、利用者のニーズに寄り添った復旧が必要。
- また、当該地区の港湾施設の被害は広範囲にわたることから、復旧に一定程度の時間を要することが想定されることから、段階的かつ効率的な復旧が必要。
- 港内水深(3m～4m)を再度確保するためには、大量の浚渫土砂が発生することから、土砂処分場所の確保が不可欠。



漁船だまりの位置図



漁船だまりの浅部箇所



地震後の物揚場の状況
(令和6年1月9日撮影)



物揚場の高さに高さ合わせた応急対策
(仮棧橋設置)

1－2 輪島港の被害状況と課題

課題③（港内の静穏性）

第4・第6防波堤の復旧

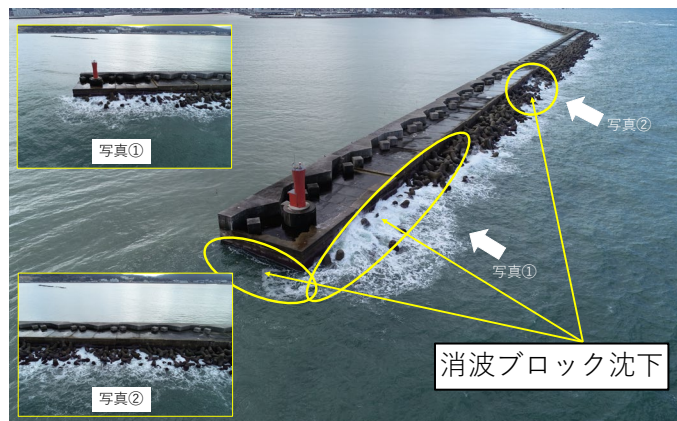
- 輪島港では、荒天時に輪島港沖を航行する船舶の避難の観点から、従前より、第4・第6防波堤の整備が進められてきたところ。
- 今般の地震で第4・第6防波堤が被災し、港内静穏性が低下したことを受け、避難船舶の利用に支障が生じ、輪島港沖における航行安全への支障が懸念されることから、早期に港内への波浪の遮断(＝静穏度の確保)が必要。



課題④（復旧工事の制約）

港湾工事作業ヤード

- 発災前、港湾工事の作業ヤードとして活用していた敷地の護岸が被災するとともに、ヤードで液状化被害が発生。今後、円滑に復旧工事を進めるためには消波ブロックの製作や資機材の搬入場所が必要となることから、これまで以上の作業ヤード面積が必要。



第4防波堤の被災状況
(令和6年1月9日撮影)



第6防波堤の被災状況
(令和6年1月9日撮影)



作業ヤード利用状況
(令和6年1月4日撮影)

第 2 章 短期復旧方針

2－1 短期復旧方針の基本的な考え方

2－2 短期復旧方針（方針図）

2－1．短期復旧方針の基本的な考え方

【輪島港「復旧（短期）」の基本的な考え方】

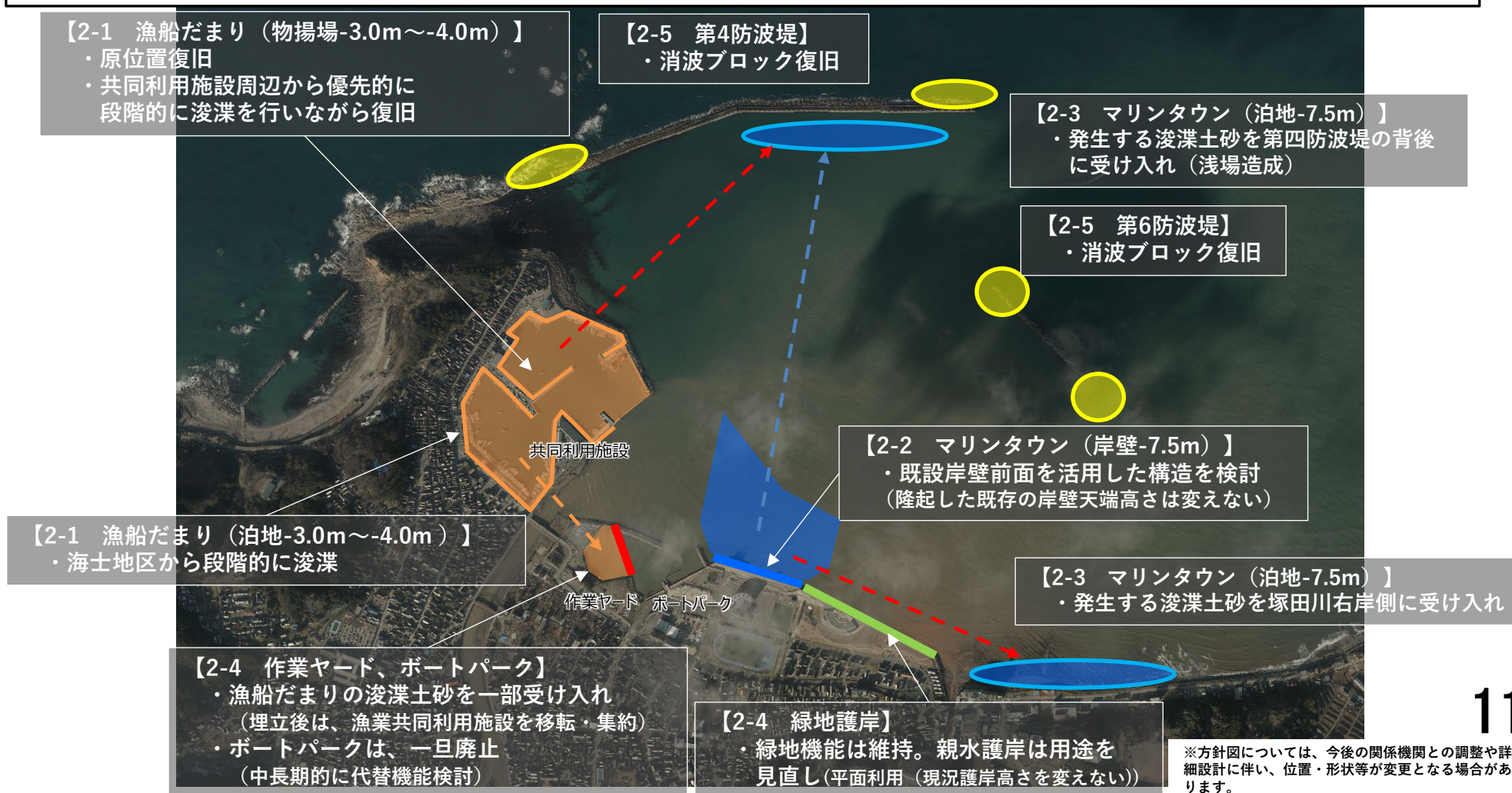
- これまでに前例がない地盤隆起や、日本海の冬期風浪等における厳しい条件下での復旧・復興が必要となることから、段階的に供用させながら復旧を実施する。
- 復旧については、早期の生業、賑わいの再生に向け、「原位置」での復旧を進める。
- 短期復旧期間については概ね2～3年の完了を目標とし取り組む。

2-2 短期復旧方針（方針図）

～輪島港の早期機能復旧を通じた生業再建を最優先事項とし、
原位置における段階的かつ効率的な復旧を目指す～

【短期復旧方針の基本的な考え方】

- これまでに前例がない地盤隆起や、日本海の冬期風浪等における厳しい条件下での復旧・復興が必要となることから、段階的に供用させながら復旧を実施する。
- 復旧については、早期の生業、賑わいの再生に向け、「原位置」での復旧を進める。
- 短期復旧期間については概ね2～3年の完了を目標とし取り組む。



第 3 章 中長期復興プラン

- 3－1 復興に向けた要請と課題
- 3－2 中長期の基本方針と施策
- 3－3 中長期復興プラン
- 3－4 タイムライン

3-1 復興に向けた要請と課題

ポイント

位置

施設

ニーズと課題

なりわい

漁船だまり

港湾施設

- ・大型漁船への対応
- ・漁船の多層係留の解消

共同利用施設（民）

- ・水産業のさらなる発展
- ・水産物のブランド力向上

【大型漁船への対応】

- 現状の漁船だまり水深4m以上の水深を必要とする輪島港を船籍とする漁船が他港利用



大型漁船他港係留状況(金沢港)

【水産物のブランド力向上】

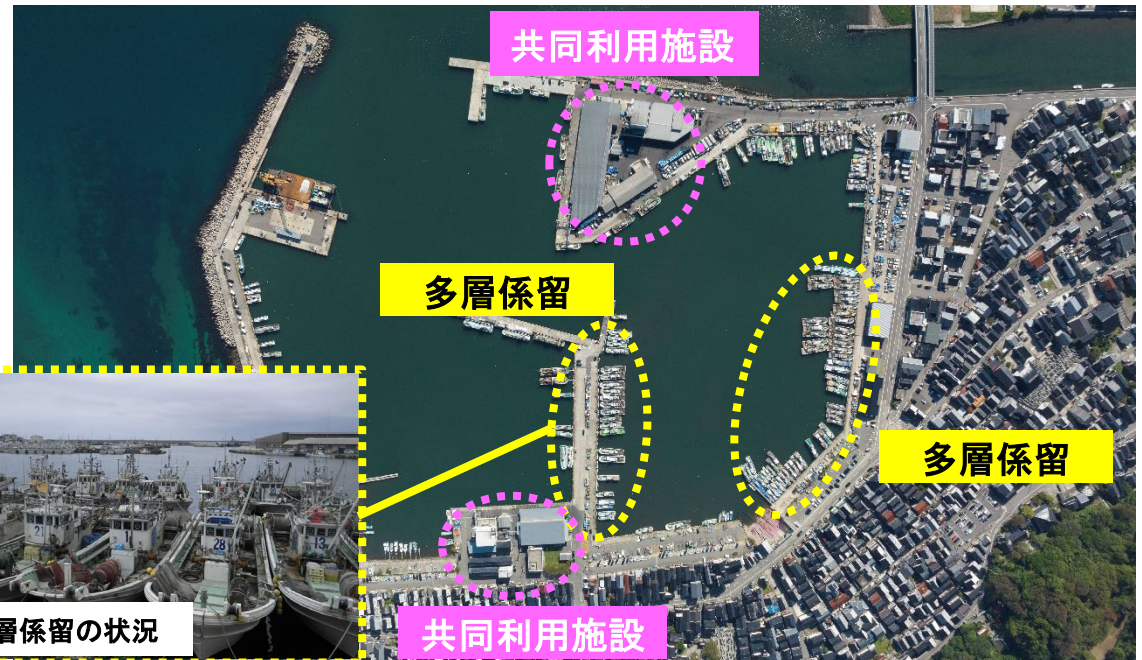
- 輪島の水産物のブランド力を情報発信するための共同利用施設の整備



出張輪島朝市の様子(金沢港金石地区)

【漁船の多層係留の解消】

- 石川県内最大の漁船数である輪島港の現漁船だまりが狭隘のため多層係留が生じている(接岸隻数約200隻)



漁船だまり全景（能登半島地震前発生前）2022.10月撮影

3-1 復興に向けた要請と課題

ポイント

位置

施設

ニーズと課題

にぎわい

マリンタウン

旅客船

・大型化するクルーズ船への対応

ボートパーク

・プレジャーボートの受け入れ

緑地・広場

・市民の賑わいと憩いの再建

【大型化するクルーズ船への対応】

- 郵船クルーズの新造船を誘致する場合、岸壁延長が不足



全長	230.2m
全幅	29.8m
喫水	6.70m
総トン数	52,200GT
総客室数	385室（予定）
乗客定員	約740名
乗組員数	約470名

新造客船概要（飛鳥Ⅲ）

【プレジャーボートの受け入れ】

- 隆起によりプレジャーボートの受け入れ不可



輪島市マリンタウンボートパーク被災状況



船揚場損傷

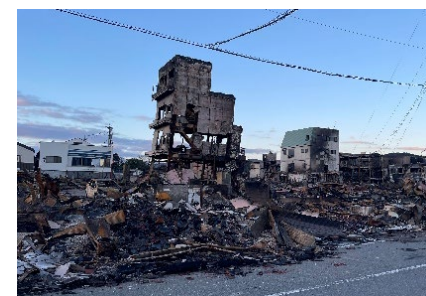
輪島市マリンタウンボートパーク被災状況

【市民の賑わいと憩いの再建】

- マリンタウンが仮設住宅地となり憩い空間が喪失
- マリンタウン周辺の観光拠点である輪島朝市の焼失で活力低下



マリンタウン仮設住宅立地状況



賑わい拠点の被災状況（朝市通り焼失）

3-1 復興に向けた要請と課題

ポイント

位置

施設

ニーズと課題

安全・安心

外郭施設等

防波堤・岸壁

緑地・広場

航路・泊地

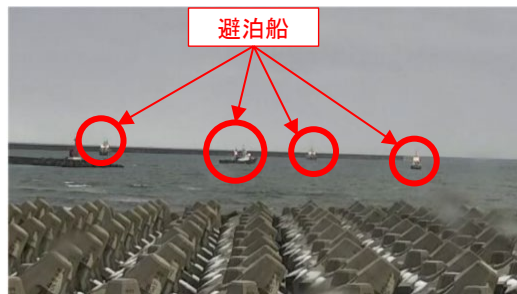
- ・荒天時の避難船の受入確保
- ・大規模地震に耐える施設の確保
- ・災害に強いまちづくり
- ・地震・豪雨災害により大量の土砂が発生

【荒天時の避難船の受入確保】

○日本海側を航行する船舶の避難港として避泊水域の確保



貨物船避泊状況（2006.11.7）



貨物船避泊状況（2018.2.1）

【災害に強いまちづくり】

○能登半島地震、豪雨被害を教訓に輪島港を拠点とした防災強化



入浴支援状況
(マリンタウン大屋根テント)



支援物資搬入状況
(マリンタウン大屋根テント)

【大規模地震に耐える施設の確保】

○大規模地震発生直後でも緊急物資輸送を可能とする施設の構築



輪島港での支援物資輸送(左：民間船舶、右：海上保安部)



【地震・豪雨災害により大量の災害土砂が発生】

○能登半島地震、奥能登豪雨により発生した災害土砂の受け入れ



起重機船（弘武）による緊急浚渫状況



3-1 復興に向けた要請と課題

ポイント

位置

施設

ニーズと課題

環境・
地域づくり

外郭施設等

防波堤

・海洋環境の維持・向上

マリンタウン

緑地・広場

・子供たちの遊び場、スポーツ施設の確保
・にぎわい、憩いなどニーズに合った緑地整備

【子供達の遊び場、スポーツ施設の確保】

○被災前は子供たちの遊び場、サッカーなどスポーツを楽しめる憩える空間
現在は仮設住宅用地として利用



被災前（平成27年2月21日撮影）



現在（令和6年5月31日撮影）

【海洋環境の維持・向上】

○輪島港周辺での生業(海女漁等)や環境に配慮した復興



【にぎわい、憩いなどニーズに合った緑地整備】

○かつての賑わい
マリンタウン競技場でマーチングバンドの発表会



3-2 中長期の基本方針と施策

石川県創造的復興プラン

(スローガン) 能登が示す、ふるさとの未来 Noto, the future of country

(港湾に関する施策) **受け地の魅力づくり** → 港湾のにぎわいの創出
港湾の強靱化 → 支援物資等の輸送拠点としての役割を担う港湾施設の強靱化と防災拠点化

上位計画を踏まえ、中長期の創造的復興に取り組む

輪島市復興まちづくり計画 (輪島市 令和7年2月策定)

考えられる 4つの柱

能登の特色ある生業（なりわい）の再建

暮らしとコミュニティ（にぎわい）の再生

災害に強く安全・安心な港づくり

環境にやさしく地域に貢献する港づくり

3-2 中長期の基本方針と施策

施策の柱

施策の方向性

施 策

能登の特色ある 生業（なりわい） の再建

関係者の意向に寄り添い
ながら、人流・賑わいを生
み出す港づくりに取り組む

漁船だまり

- ①漁業共同利用施設の機能集約・強化
- ②漁船だまりの機能の再編（多層係留の解消）
- ③水産物の安定供給・販路拡大

暮らしとコミュニ ティ（にぎわい） の再生

にぎわいと憩いのある
港づくりに取り組む

マリンタウン

- ④クルーズ船の誘致と受け入れ体制の強化
- ⑤プレジャーボートの受け入れ体制の検討
- ⑥市民のニーズにあった緑地、憩い空間のリニューアル
- ⑦港と市街地の連携強化・回遊性の向上

災害に強く 安全・安心な 港づくり

全国有数の避難港
として維持し、災害
に強い安全安心な
港づくりに取り組む

外郭施設・泊地等

- ⑧避難船のための避泊域の確保
- ⑨災害に強い粘り強い防波堤の改良
- ⑩災害に強い防災拠点の構築
- ⑪災害復旧事業加速化に向けた新たな土砂受入先の検討

環境にやさしく 地域に貢献する 港づくり

環境保全・地域コミュニ
ティの維持に取り組む

外郭施設

- ⑫生息環境維持とCO2削減のための藻場の造成
(構造物への環境機能の付加)
- マリンタウン
- ⑬遊び場・スポーツ施設の再整備
- ⑭市民のニーズにあった緑地、憩い空間のリニューアル（再掲）
- ⑮災害の記録・記憶の伝承

3-2 中長期の基本方針と施策

施策の柱

施策の方向性

施策

能登の特色ある
生業（なりわい）
の再建

関係者の意向に寄り
添いながら、人流・賑
わいを生み出す港づ
くりに取り組む

漁船だまり

- ①漁業共同利用施設の機能集約・強化
- ②漁船だまりの機能再編
- ③水産物の安定供給・販路拡大

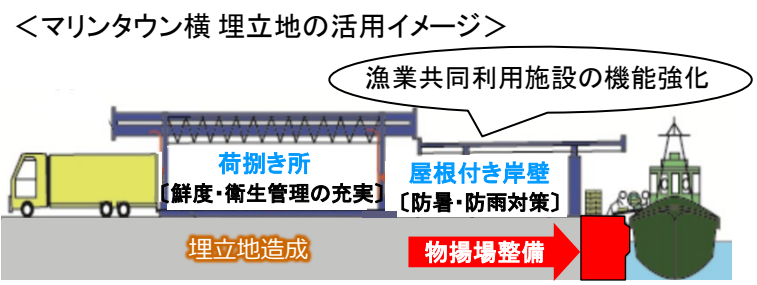
【①漁業共同利用施設の機能集約・強化】

【②漁船だまりの機能再編】



【③水産物の安定供給・販路拡大】

＜マリンタウン横 埋立地の活用イメージ＞



出典：百万石の極み（石川県農林水産部ブランド戦略課HP）

3-2 中長期の基本方針と施策

施策の柱

施策の方向性

施策

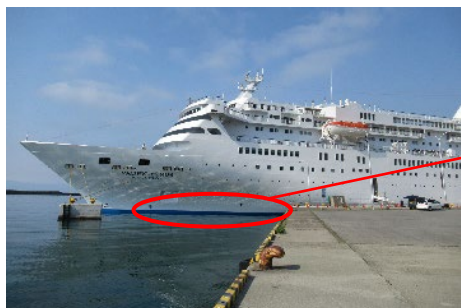
暮らしとコミュニティ（にぎわい）の再生

にぎわいと憩いのある港づくりに取り組む

マリンタウン

- ④クルーズ船の誘致と受け入れ体制の強化
- ⑤プレジャーボートの受け入れ体制の検討
- ⑥市民のニーズにあった緑地、憩い空間のリニューアル
- ⑦港と市街地の連携強化・回遊性の向上

【④クルーズ船の誘致と受け入れ体制の強化】



新潟県小木港(ドルフィン事例)

【⑤プレジャーボートの受け入れ体制の検討】



伏木富山港(ボートパーク事例)

【⑥市民のニーズにあった緑地、憩い空間のリニューアル】
【⑦港と市街地の連携強化・回遊性の向上】



至 輪島市街地

3-2 中長期の基本方針と施策

施策の柱

施策の方向性

施策

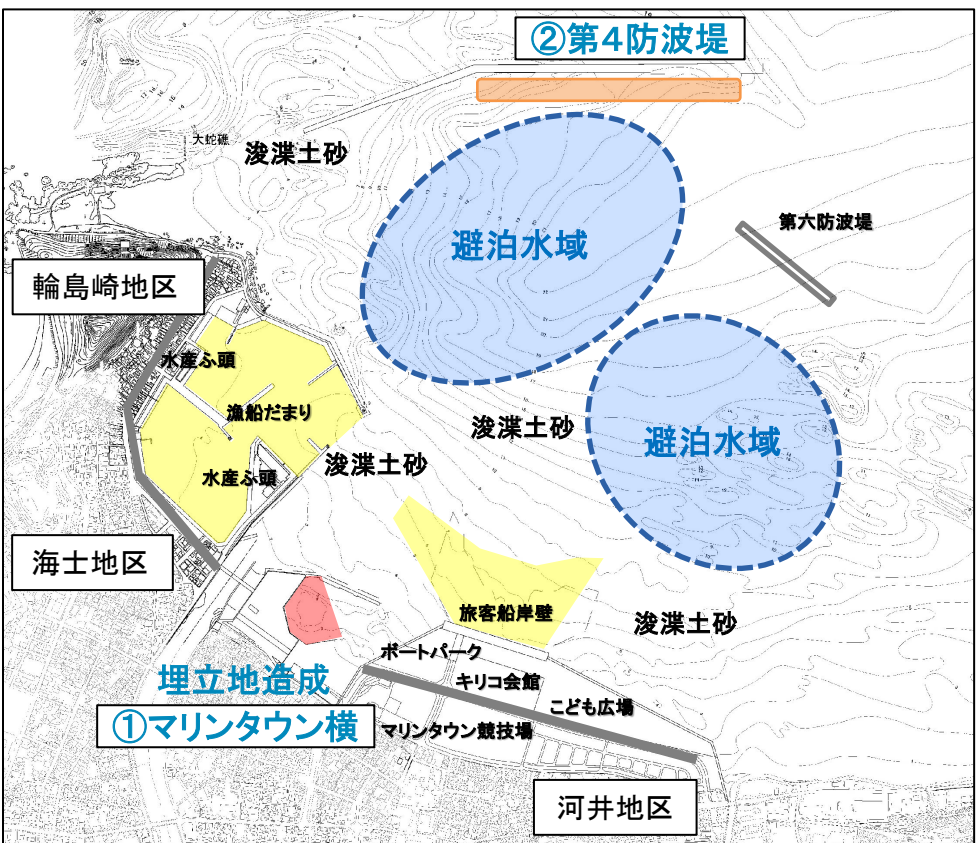
安全・安心

全国有数の避難港として維持し、災害に強い安全安心な港づくりに取り組む

外郭施設・泊地等

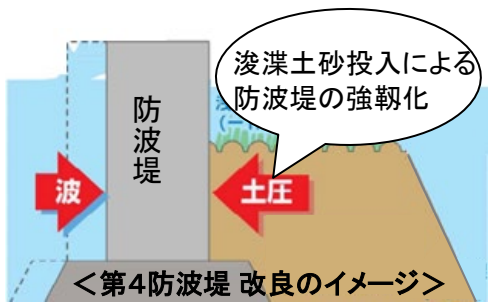
- ⑧避難船のための避泊域の確保
- ⑨災害に強い粘り強い防波堤の改良
- ⑩災害に強い防災拠点の構築
- ⑪災害復旧事業加速化に向けた新たな土砂受入先の検討

【⑧避難船のための避泊域の確保】



【⑨災害に強い粘り強い防波堤の改良】

【⑩災害に強い防災拠点の構築】



写真提供) 日本財団

【⑪災害復旧事業加速化に向けた新たな土砂搬出先の検討】



3-2 中長期の基本方針と施策

施策の柱

施策の方向性

施策

環境・
地域づくり

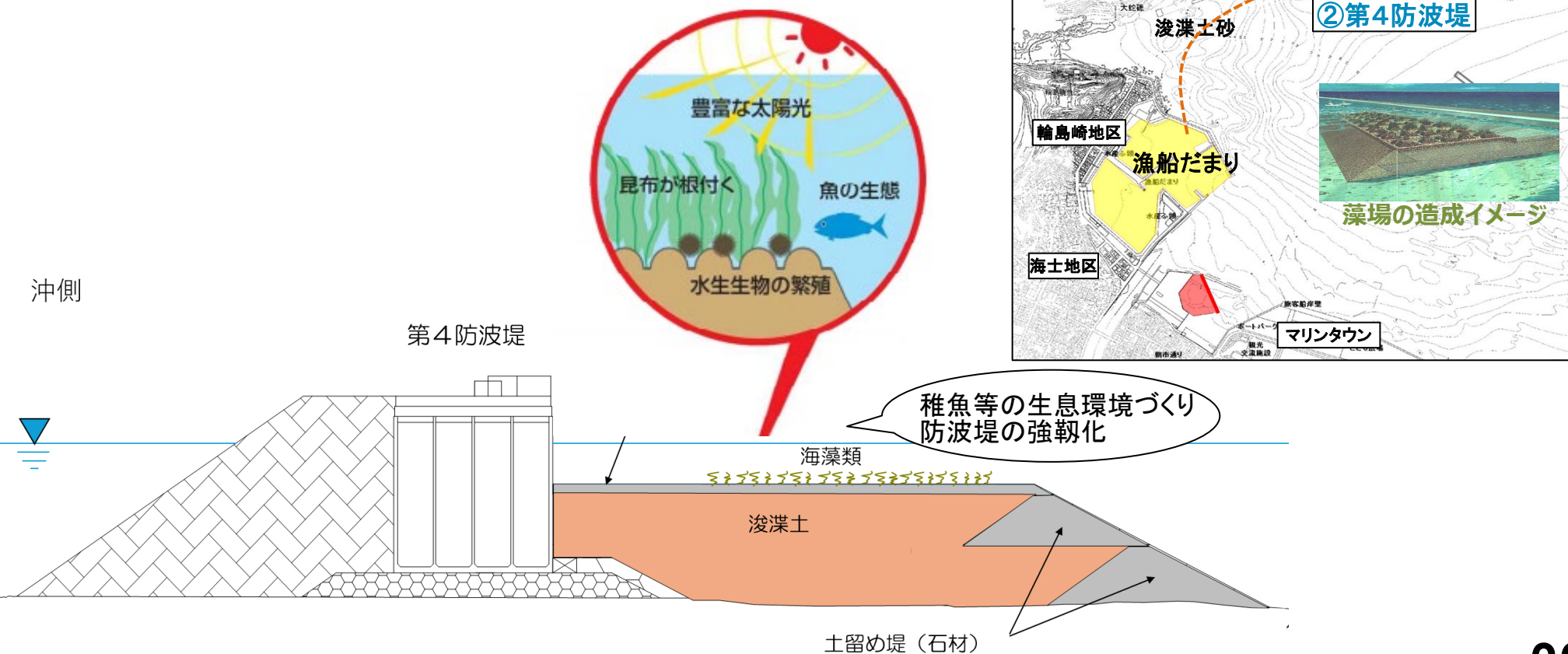
環境保全・地域コミュニティの維持に取り組む

外郭施設

⑫ 生息環境維持とCO2削減のための藻場の造成

(構造物への環境機能の付加)

【⑫ 生息環境維持とCO2削減のための藻場の造成】



3-2 中長期の基本方針と施策

施策の柱

施策の方向性

施策

環境・
地域づくり

環境保全・地域コミュニティの維持に取り組む

マリントウン

- ⑬遊び場・スポーツ施設の再整備
- ⑭市民のニーズにあった緑地、憩い空間のリニューアル（再掲）
- ⑮災害の記録・記憶の伝承



【⑬遊び場・スポーツ施設の再整備】



【⑭市民のニーズにあった緑地、憩い空間のリニューアル（再掲）】



3-3 中長期復興プラン

～海と共に歩む輪島港、共に創る未来～

復興に向けた4つの柱と施策

能登の特色ある生業の再建

- ①漁業共同利用施設の機能集約・強化
- ②漁船だまりの機能の再編(多層係留の解消)
- ③水産物の安定供給・販路拡大

暮らしとコミュニティ(にぎわい)の再生

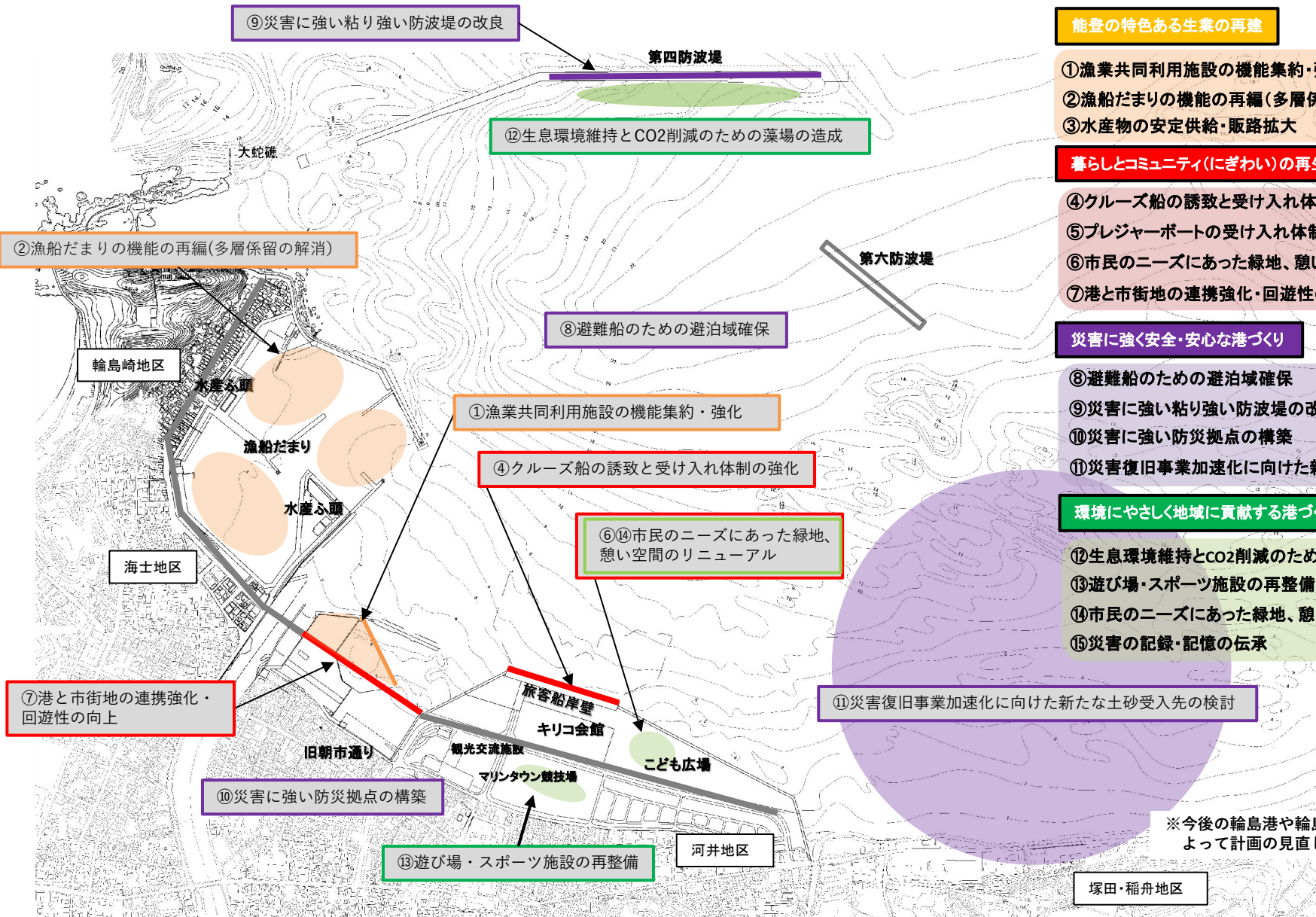
- ④クルーズ船の誘致と受け入れ体制の強化
- ⑤プレジャーボートの受け入れ体制の検討
- ⑥市民のニーズにあった緑地、憩い空間のリニューアル
- ⑦港と市街地の連携強化・回遊性の向上

災害に強く安全・安心な港づくり

- ⑧避難船のための避泊域確保
- ⑨災害に強い粘り強い防波堤の改良
- ⑩災害に強い防災拠点の構築
- ⑪災害復旧事業加速化に向けた新たな土砂受入先の検討

環境にやさしく地域に貢献する港づくり

- ⑫生息環境維持とCO2削減のための藻場の造成
- ⑬遊び場・スポーツ施設の再整備
- ⑭市民のニーズにあった緑地、憩い空間のリニューアル(再掲)
- ⑮災害の記録・記憶の伝承



※今後の輪島港や輪島市を取り巻く情勢の変化によって計画の見直しを行う場合があります。

3-4 タイムライン

